

編集後記

1971年4月2日に開学した創価大学は、2021年に創立50周年を迎えた。本誌の前身『創価教育研究』の「創刊にあたって」（2002年）には、創価教育研究センター（当時）は「創立50周年を目指し、大学史が編纂できるよう資料を整えておく」ことを活動の柱の一つとする旨が記されている。その意味で創立50周年は、創価大学全体はもとより、本研究所にとっても大きな節目を刻む一年となった。

この佳節を記念する諸事業に、池田大作記念創価教育研究所（以下「研究所」）は様々な形で参画してきた。まず、4月2日には『創価大学50年の歴史』が刊行をみている。上記の目標を掲げて、研究所は長年にわたり、同書の資料提供等の編纂業務に中心的な役割を果たしてきた。その成果に基づき、本部棟にオープンした創立50周年記念展「創価大学の歴史」や記念映像の制作にも協力している。

また10月23日・24日には、第11回池田大作思想国際学術シンポジウムが、創価大学を中心にオンラインで開催された。日本では初開催となる同シンポジウムには、10カ国・地域の52大学・機関から80本の研究論文の提出があった。当日は11の分科会に分かれて議論が交わされ、研究所所属の3名の教員も研究発表を行っている。

このように2021年度は、これまでの蓄積に基づき、様々な形で創価教育の歴史と意義を国内外に発信する一年になったといえる。『創価教育』第15号には、これらの研究の一端を収録するとともに、今後の学術的な創価教育研究の基礎となりうる論考を多数掲載することができた。

まず論文として、塩原将行氏による「池田大作が『戸田大学、で学んだこと』」を掲載した。これは、当研究所の研究会での発表と議論をもとにまとめられた論考である。犬飼希望氏による英訳も収録したが、これは戸田城聖研究の国際的な展開に資する意図によるものである。

次に、2021年に行われた講演の中から3本を掲載した。まず、前述の第11回池田大作思想国際学術シンポジウムにおける馬場善久学長の基調講演を収録した。福谷茂氏の「カントへの私の道」、藤井千春氏の「ジョン・デューイ—メリオリズムを生きる思想—」は、それぞれ6月7日、12月13日に行われた研究所主催講演会の講演記録である。創価教育学の形成に重要な影響を与えたカント、デューイの思想について論じている。

2021年は牧口常三郎生誕150周年の佳節であった。その意義を込めて10月29日に開催した記念座談会では、牧口研究を精力的に進めてきた5名の研究者が、これまでの成果と今後の展望を語り合っている。

中国における「池田思想」研究の動向についての報告は、本号で18回目を迎えた。2021年に開催された池田思想研究の学術シンポジウム等のほか、池田研究の成果等を紹介している。また前号に引き続き、『創価大学50年の歴史』の編纂にあたって使用した出典資料の一覧を、資料紹介として収録している。

2021年は、創価教育関連の研究書が相次いで刊行された年でもあった。そのうち3

点につき、松井慎一郎氏、利田律子氏、岩木勇作氏より書評をご寄稿いただいた。

おわりに、今回の紀要に原稿をお寄せ下さった諸先生方、そして紀伊國屋書店をはじめ御協力・御尽力いただいた方々に、この場を借りて篤く御礼を申し上げたい。

2022年3月 (T.S.)